



11/9 NST 学習会の報告です。参加者 14 名でした。

経腸栄養法のメリット

食事に近い生理的な栄養法 消化管ホルモン分泌をより自然な状態に維持	腸管免疫能の維持 消化管粘膜の萎縮を防止し感染症の特定できない感染症や敗血症、多臓器不全リスクを低減
器具の維持・管理が簡便で安全 手間の軽減 特別な無菌管理も不要	重篤な合併症が起こりにくい 静脈栄養に比べ合併症のリスクが低い

侵襲反応の抑制が可能

侵襲による異化ホルモン増加を抑制

出典:日本静脈経腸栄養学会編「経腸経腸栄養ハンドブック」(2011)

経腸栄養剤・流動食の種類と特徴

成分栄養	消化態栄養	半消化態栄養	天然流動食
全て構成成分が化学的に明らか消化不要	構成成分の大部分がほぼ消化された状態で、消化吸収しやすさに配慮	最も一般的に使用されている消化の必要なタイプ	粥、卵、牛乳など自然食品由来の流動食
結晶アミノ酸	アミノ酸 低分子ペプチド	たんぱく質	たんぱく質
消化 必要性 なし	消化 必要性 あり		消化 必要性 あり
残渣 なし	残渣 あり		残渣 あり

出典:日本静脈経腸栄養学会編「経腸経腸栄養ハンドブック」(2011)

経腸栄養剤の種類と特徴についてネスレ日本株式会社担当者からお話しいただきました。栄養療法の種類としては、経口摂取、経腸栄養、静脈栄養があります。選択基準としてざっくりとわけますと、消化管が機能している場合に選択するのが、経腸栄養法。消化管が機能していない場合に選択するのが静脈栄養法です。経腸栄養法のメリットは、食事に近い生理的な栄養法・・・消化管ホルモン分泌をより自然な状態に維持、消化管粘膜の萎縮を防止し感染症のリスクを低減、侵襲による異化ホルモン増加を抑制することなどから、消化管からの消化・吸収（＝経腸栄養）は本来の生理的な栄養摂取ルートなのです。

経腸栄養剤・流動食の種類と特徴については図に示した通りですが、成分栄養 消化態栄養 半消化態 天然流動食と消化されやすい構成成分から消化の必要な構成成分になっています。病態に応じて選択するのが望ましく、わからない場合は管理栄養士にご相談ください。

次回の学習会は 12月14日 第2水曜日 17:30～です。

テーマ「脂肪乳剤の使用法」 講師：大塚製薬工場株式会社担当者 です。

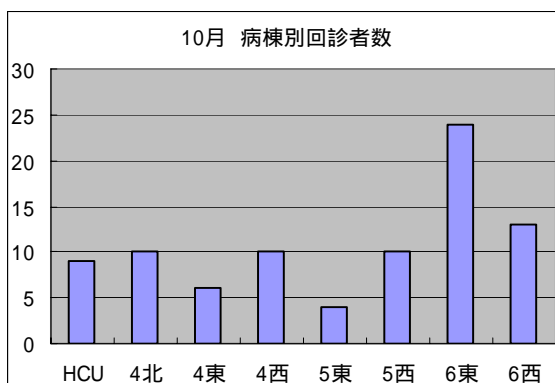
脂肪乳剤使の基本的な使用方法、禁忌、慎重投与、についても詳しくお話ししていただけます。

どなたでも参加できるオープン形式ですので、お気軽にお越しください。



10月分の実績です。

	TPN(延べ人数)	EN(延べ人数)	PEG造設数	新規介入数	延べ回診者数
10月	148	280	2	24	86



NST の介入患者さんは週 1 回の体重測定、SGA 評価の実施を宜しくお願いします。
 TPN・・・中心静脈栄養（高カロリー輸液）
 EN・・・経腸栄養（経鼻・胃ろう等からの経管栄養）
 文責：NST 専従 管理栄養士 飛鳥田 智子